

2025年度

道北陸上競技協会
審判伝達講習会

2024年度 北海道陸協 伝達講習会



<2025年度競技規則修改正のポイント>

日程：2025年3月9日（日）
オンライン会議
一般財団法人 北海道陸上競技協会

競技規則修改正のタイミング



○WAの競技規則修改正のタイミング

- ・従前：（基本）毎年8月のCouncil（評議会）で決定、11月～実施
- ・最近：年3回程度行われるCouncil（評議会）の都度決定。即時実施
軽微なものや運用に関しては不定期にCircular（通達）

○JAAFの競技規則修改正の流れ・タイミング

- ・2月 全国競技運営運営責任者会議
- ・3月 理事会
- ・4月～実施

⇒ WAの修改正タイミングとJAAF修改正タイミングにズレあれ

2025年度修改正 競技会規則【CR】



○CR22.6 スタート時のスターターと審判長の役割の明確化

- ・スターター：不正スタートの判断
- ・審判長：スタート時における不適切行為の判断

2025年度修改正 競技会規則【CR】



○CR25.4 結果に用いる略号の使い方

“r”：試技放棄・離脱

（背景）混成競技で途中で棄権したにも関わらず、得点表に
“r”を記載するケースあり。

⇒ 正しくは“DNF”

（修改正前）フィールド競技・混成競技

↓

（修改正後）**フィールド種目**（含む、混成競技のフィールド種目）

2025年度修改正 競技会規則【CR】



OCR32及びCR34 世界記録・日本記録の対象種目の変更

【競歩競技】

- ・TR54.1にて競歩競技の標準となる距離が変更されることによるもの

(2026年1月～追加)

トラック ハーフマラソン (21,097.5m) ・ マラソン (42,195m)
道路 ハーフマラソン (21km0975) ・ マラソン (42km195)

2025年度修改正 競技会規則【CR】



OCR34.4.6 競歩競技の日本記録認定要件

(修改正前) 少なくとも1人のJRWJ以上の資格を持った競歩審判員が競技中歩型の判定を行い、日本記録申請書に署名

(修改正後) 少なくとも3人のJRWJ以上の資格を持った競歩審判員が競技中歩型の判定を行い、日本記録申請書に署名

2025年度修改正 競技会規則【CR】



OCR34.10【注意】日本記録の記号①

(背景)

WAは2024年1月から各国のナショナルレコードはWRK大会でマークされた記録のみを新たに認定 (Circularで通知)

JAAFは非WRK大会でマークされた記録も日本記録と認定することに変更なし

このためWAが認める記録とJAAFが認める記録が一致しないケースが発生

2025年度修改正 競技会規則【CR】



OCR34.10【注意】日本記録の記号②

(WAが認める記録とJAAFが認める記録が一致しないケース)

女子800m **久保凛** 1'59"93 (2024.7.15/非WRK競技会)

不一致!

Category	Record Holder	Time	Date
800 METRES	RINA KUBO	1'59"93	2024.7.15
800 METRES	久保凛	2'00"03	2024.7.15

2025年度修改正 競技会規則【CR】



○CR34.10【注意】日本記録の記号③

(修改正) 2024年1月以降の記録で、非WRk競技会でマークされた日本記録がWRk競技会でマークされた記録を上回る場合には、以下の略号をつけて区別
(それ以前の記録で、引き続き日本記録であるものには略号なし)

(W) : WRk競技会でマークされた日本記録

(J) : 非WRk競技会でマークされた日本記録

【例】女子800m (W) 2' 00" 45 杉森 美保 (2006.6.5)
(J) 1' 59" 93 久保 凜 (2024.7.15)

2025年度修改正 競技規則【TR】



○TR8 抗議と上訴

(修改正) 【注釈】 上訴を行うことができるのは、ジュリーが置かれている競技会のみ

○TR8.6 フィールド競技で現場抗議が行われた際 (TR8.5) の記録の扱い

(現状) 【国際】 …その抗議が認められれば競技を続けることができないはずの別の競技者

⇒競技を続けることを認められた場合

⇒抗議の扱いに関わらず記録や最終成績は有効



(修改正) 【国内】 TR8.5を適用した場合は当規則も適用

2025年度修改正 競技規則【TR】



○TR11.4【国内】上位大会進出のため追加試技を行なった際の記録の扱い①

(背景)

- ・高さを競う競技会で、上位大会出場枠が6名であるのに、6位までの選手が7名以上いた場合、上位大会進出者を決める追加試技
- ・第1位以外の順位は「同成績者は同順位」とするため (TR26.8)、追加試技の順位は本試技の順位に無関係だが、これまで記録の扱いが明示されていない

2025年度修改正 競技規則【TR】



○TR11.4【国内】上位大会進出のため追加試技を行なった際の記録の扱い②

(修改正)

- ・上位大会出場者の選出方法は主催者判断。
抽選、追加レース、追加試技のいずれでも可。
- ・追加レースや追加試技で達成された記録は、当該競技会での順位決定とは無関係であるが、個人 (チーム) の最高記録、ランキング、参加標準記録といった目的では有効なものとして取り扱われる。

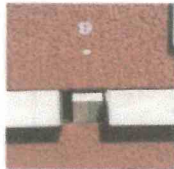
2025年度修改正 競技規則【TR】



○TR14.1【注意】曲走路と直走路の変わる位置マーク

(修改正)

- TR17.3.3、TR17.3.4への対応
直走路部分で内側に入った・踏んだ、曲走路部分で内側に入った・踏んだ
- コーナー入口・出口で曲走路から直走路、直走路から曲走路に変わる位置がわかるように、そのポイントのトラック内側にコーンを設置（第1コーナー除く）



2025年度修改正 競技規則【TR】



○TR17.5.1【国内】500m・600mの競技方法①

2024年度より国内の「記録公認対象」種目となった両種目の競技方法を明示
(昨年度の全国競技運営者会議にて説明済)

【500m競走】

- 完全セパレートレーンで実施
- 第2曲走路に100mスタートラインを基準とした階段スタートライン設定
- 実施できるのは、スタート位置の標識が設置されている競技場に限る

2025年度修改正 競技規則【TR】



○TR17.5.1【国内】500m・600mの競技方法②

【600m競走】

- セパレートレーンでスタートし、途中からオープンレーンで実施
- 第2曲走路に400mと同様の階段スタートラインを対称的に設定。
スタート位置はメドレーリレーの2走のスタート位置
- 300mまでは（曲走路を2回走るまでは）セパレートレーンとし、通常の800m競走のブレイクラインからオープンレーン。
- メドレーリレーの1走のスタート位置の標識が設置されている競技場に限る

2025年度修改正 競技規則【TR】



○TR17.12【国内】風力計測

・2024年度より国内の「記録公認対象」種目となった150mの風力計測時間明示

(現状)	55m	5秒間
	55mハードル	5秒間
↓		
(修改正)	55m	5秒間
	55mハードル	5秒間
	150m	10秒間（計測方法は200mと同じ）

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR17.15.3 トラック競技における給水・スポンジ

(現状) 競技者はいつでも、スタート地点や主催者が設置した供給所で受け取った水や飲食物を手を持ったり、身体に身につけたりして持ち運んで良い。



(修改正) 競技者はスタート地点から持ち込んだり、主催者が設置した供給所で受け取ったりした水や飲食物を、いつでも手に持ったり身体につけたりして競技を行なっても良い。

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR20.2.3【国際】トラック競技における予選の番組編成①

(現状) 番組編成にあたってはできるだけ全競技者の成績を考慮し、最も良い記録を持っている競技者が決勝に残れるような編成が望ましい。

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR20.2.3【国際】トラック競技における予選の番組編成①

(修改正) 予選ラウンドが実施される際の組編成にあたってはできるだけ全競技者の成績を考慮し、最も良い記録を持っている競技者が決勝に残れるように編成することが望ましい。

可能な限り同じ加盟団体またはチームの競技者だけでなく、ランキングの上位記録を持つ競技者が予選の同じ組に入らないようにすることも含まれる。

こうした組み合わせの調整は、番組編成の原案が出た直後に、レーンを決める前に行う必要がある。

こうした変更を行なった後、各組のレベルが可能な限り均等になっているか最終チェックを行う。

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR20.3 ランキングと予選の組み合わせ①

TR20.3.1

(現状) 最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、シードを決定し、ジグザグ配置によって予選の組の組を決める。



(修改正) 最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、順位付けを行う。

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR20.3 ランキングと予選の組み合わせ②

TR20.3.2 予選ラウンド等を行なった場合、次のラウンドの組の編成は前のラウンドの成績によって行う。

TR20.3.3 TR20.3.1、TR20.3.21のどちらも（最初のラウンドもそれ以降のラウンドも）それぞれの順位付を行ない、**競技者をジグザグに配置する。**

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR26.9.5【国内】上位大会出場枠決定のための試技方法

（高さを競う跳躍）

（背景）同順位競技者が複数いて、上位大会進出数を超える場合

⇒ ジャンプオフを「別競技会」扱いとして実施

※ 競技方法については競技規則に定められていない

（他種目）長さを競う種目：通常 6 回試技で順位が明確

トラック種目：「抽選」「追加レース」

（修改正）【国内】上位大会出場者の最終順位に同順位がいた場合、

その出場者の決定は、**1 位決定のジャンプオフ方式を適用**することができる。

⇒ 主催者判断で「抽選」「3 回試技」「ジャンプオフ」でも可
（競技注意事項）

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR29.9 長さを競う跳躍競技の計測方法

（現状）① 跳躍の計測は有効試技終了後、直ちに行わなければならない。

② 跳躍距離は身体の一部又は身につけていたものが着地場所に残した痕

③ 跡の踏切線に最も近い箇所から、踏切線までを計測

（修改正）②跳躍距離は**身体の一部又は着地する瞬間に身につけていたものが着地**

（例）走幅跳でジャンプを行った際に腕時計が外れて砂場に落ちたが、
身体はその先の砂場に正しく着地した ⇒ 腕時計が落ちた場所 ×
身体が着地した場所 ○

2025年度修改正 競技規則【TR】

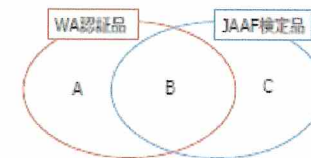


OTR32.1【国内】WRk競技会で使用する投擲物①

JAAF：国内競技会で使用可能な投擲物は「JAAF検定品」でなければならない

WA：WRkで使用する投擲物はWAの認証品のみとする

⇒ 国内で行われるWRkで「WA認証品だが、JAAF非検定品」をどう扱うか



	A	B	C
WA認証品	○	○	×
JAAF検定品	×	○	○

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR32.1【国内】WRk競技会で使用する投擲物②

(現状) ワールドランキングコンペティションではWA認証品のみを使用
但し、WA認証品かどうかの証明は、持ち込んだ競技者が行う

(修改正) ワールドランキングコンペティションでは本連盟検定品かつWA
認証品のみ使用する。但しWA認証品かどうかの証明は、持ち込
んだ競技者が行う 【前ページの図「B」に合致するもの】

<参考> WA認証品か否かのチェック方法

- ①個別投擲物の印字・シール
- ②WAのWebサイト掲載のリスト

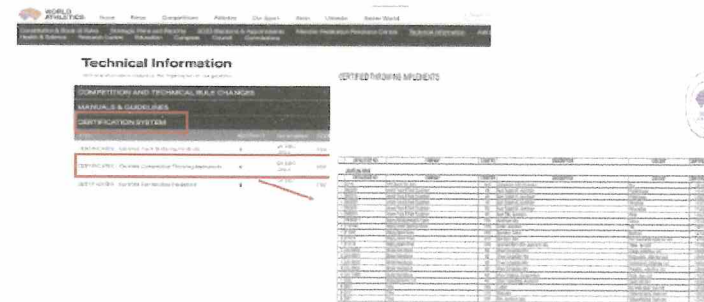


<https://worldathletics.org/about-iaaf/documents/technical-information>

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR32.1【国内】WRk競技会で使用する投擲物③



2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR37.4【注意】ハンマー投の可動パネル

(現状) 左側の可動パネルは右投げの競技者
右側の可動パネルは左投げの競技者
両方の競技者が参加し、可動パネルを動かす必要がある場合・・・

(背景) 「右投げ」「左投げ」の意味が正確に理解されていない

(修改正) 左側の可動パネルは反時計回りで投げる競技者
右側の可動パネルは時計回りで投げる競技者

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR41.3 ショートトラック競技場で使用できるスパイクピン

(現状) 全てのトラック走路、助走路又は踏切場所は、長さ6mmのスパイク
ピン・シューズに対応できる合成物質で覆われている必要がある。

(修改正) 全てのトラック走路、助走路又は踏切場所の表面は、長さ6mmの
スパイク・シューズに対応できる合成物質で覆われている必要がある。
但し、トラック舗装材業者又は競技場施設管理者は、最大9mmの
スパイクの使用を認めることができる。

(参考) ・競技用靴に関する規程

- 11.3 HJとJTを除きスパイクピンの長さは9mm(屋内6mm)以下
- ・ショートトラックは屋内とは限らない(1周200mまでのトラック)

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR54.4.1 競歩競技の標準となる距離

(2025.12.31まで)

400mトラック：5,000m、10,000m、20,000m、35,000m、50,000m

道路のコース：10km、20km、35km、50km

(2026.1.1から)

400mトラック：5,000m、10,000m、ハーフマラソン (21,097.5m)、
マラソン (42,195m)、50,000m

道路のコース：10km、ハーフマラソン (21.0975km)、
マラソン (42.195Km)、50km

2025年度修改正 競技規則【TR】



OTR54.7.3 ペナルティーゾーンでの待機時間

(2025.12.31まで)

距離 (その長さを含む)	時間
5,000m・5kmまで	30秒
10,000m・10kmまで	1分
20,000m・20kmまで	2分
30,000m・30kmまで	3分
35,000m・35kmまで	3分30秒
40,000m・40kmまで	4分
50,000m・50kmまで	5分

(2026.1.1から)

距離 (その長さを含む)	時間
5,000m・5kmまで	30秒
10,000m・10kmまで	1分
ハーフマラソン	2分
30,000m・30kmまで	3分
マラソン	4分
50,000m・50kmまで	5分

競技規則等の入手方法



- WAの競技規則等の入手方法
紙ベースのルールブック
(COMPETITION AND TECHNICAL RULES) の廃止
全てWAのWebサイト (ホームページ) を通じて
- JAAFの競技規則等の開示方法
紙ベースの「ルールブック」及びJAAFのWebサイト (HP)

競技規則等の入手方法



- WAの競Webサイト
投擲物WA認証品リスト



- 競技用靴WA認証品リスト



競技用靴チェックシステム
<https://certcheck.worldathletics.org>

競技規則等の入手方法

JAAF
HOKKAIDO

●JAAFのWebサイト①

<https://www.jaaf.or.jp>

委員会情報



競技規則等の入手方法

JAAF
HOKKAIDO

●JAAFのWebサイト②

委員会情報



競技規則等の入手方法

JAAF
HOKKAIDO

●JAAFのWebサイト③



(5) 囲いの安全確保

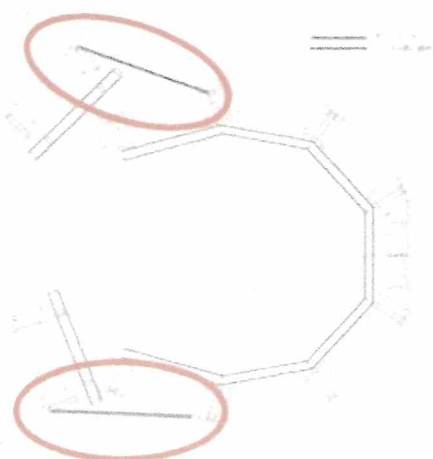
- 2023年8月に実施されたインターハイで、男子ハンマー投げ競技中選手が投げたハンマーが囲いの隙間から外に飛び出し、選手控えテントにあたり落下した。
- WA規格の囲いは本体と前パネルが一体となっており隙間がないが、従来型はどうしても隙間が生じるため、台座部分をかみ合わせ、隙間を最小限にする措置がとられているが、度重なる移動により隙間が広がる可能性がある。
- これを防止するために、補助ネットを張る方法が提案され、佐賀国民スポーツ大会で使用された。安全確保に有効であった。今後も安全に対する対応が、重要となってくる。



佐賀国スポ設置例



補助ネット設置例(ニシスポーツ提供)



(6) 長距離競走路、競歩路コース設定の注意

- 競技会では計測したコースを設定してください。計測したコースと同じに設定されないと公認大会と認められません。
- 計測時に作成された経路図、ポイント図を基に設定をしてください。コース所有者がこれらの図面を作成しています。
- 計測されたコースと違うコースとなる時には、事前にコース変更の検定を受けなければなりません。
- 途中計時の記録もコース設定の条件を満たしている箇所は、公認記録となりますが、必ず途中計時箇所にラインを入れてください。

アナウンス内容についての確認

競技運営委員会 アナウンサーチーム

1. 日本記録等の新記録誕生のアナウンスについて

新記録が確認された時点で「新記録の誕生です!」とコメントしてよい

日本記録については本来なら、諸手続きを経て公認されるものではあるが、その場で計測された数値は事実であり、臨場感を大事にし、その瞬間を選手と観客が共有できた喜びを伝えたい。

記録が確認されてすぐ新記録のコメントをせず、当該レースや当該種目の終了を待ち、全体の結果が確定するまで待っていては、間の抜けたアナウンスになってしまう。

例えば、やり投げで北口選手が、1 回目に 70m ラインを超え、計測結果が標示されたにもかかわらず、

「日本記録を上回っている模様です。正式結果をお待ちください。」などとコメントした場合、やり投げの競技が終了して投てき物の再検査が行われ、結果が確定し、結果発表まで何も言えないことになってしまう。

正式結果(確定された結果)の発表を待たねばならないとなると、臨場感のあるタイムリーなアナウンスは実現できない。

・トラック種目

1 着の選手がフィニッシュして止まったフィニッシュタイマーが一度消え、レーンナンバー・風向風力の情報とともに、タイムが再表示されたところで「新記録の誕生です!」とのコメント。

ただし、黄旗が挙がっている場合は記録の確定を待つという旨のコメントに留める。

→ 黄旗がなかった場合、フィニッシュタイマーに再表示された記録が確定されたものである

・フィールド種目

記録表示板に計測結果が表示されたタイミングでコメント。

→ 例) やり投の日本記録を示すのラインが引かれていて、これを完全に越えている場合は表示の前に「越えている」のコメントをして計測結果表示を待つのもよい

・日本記録について

陸連で公認されている日本記録は、CR34〔国内〕にある種目とカテゴリーであるものの、「魅せる競技会」にするためには、それ以外の国内記録についてコメントしたい場合もある(国スポなど)。

→ 日本記録(シニア)・U20 日本記録・U18 日本記録以外の学生・高校・中学等の記録をコメントする必要がある場合は、各 HP 等で事前に確認すること

日本記録…陸連 HP <https://www.jaaf.or.jp/record/>

学生記録…日本学連 HP <https://iuau.jp/recordroom/ur.html>

高校記録…(機関紙)月陸 Online <https://www.rikujoyogyo.co.jp/highschoolrecords>

中学記録…現在検討中

2. フィールド種目のトップ8を発表するタイミングについて

システム使用時には、トップ8の記録が確定された時点で、スクリーン使用時は表示も合わせて発表する

システムを使用している競技会では、ピットで選手に伝える前にアナウンサーによって発表できることが多い。システム使用により、記録の正確性は担保されていると考えられる。トップ8を選手に伝えるのは、フィールド審判員でなければいけないということはない。むしろ、記録が確定したら一刻も早く伝えて、時間をかけずに後半の試技へつなげる。

選手に対しては、トップ8は場内アナウンスの発表やスクリーンの表示で確認する旨を事前に伝えておき、競技を進めるというやり方をしている競技会もある。

この場合、トップ8をどのように発表するのかを事前にフィールド審判員と確認しておく。

3. 選手の呼び方について

「さん・くん」を付けずに呼ぶ等、選手の呼び方についての決まりはない

陸連として「こうすべき」という指示はなく、競技会主催者が方針を立てればよい。最近では、男女ともに「さん」呼びをする場面が多くなっているが、競技会の性質や参加する選手のレベル・年齢層等を考慮して決めればよい。ただし、一旦方針が決まったならば、途中で変更するべきではないし、その競技会を通してアナウンサー全員が、同じ呼び方ができるように徹底する必要がある。

4. 用語等について

原則は陸連 HP 掲載の『JAAF アナウンサーのしおり』『初めてマイクにおかう人へ』のとおり

とくに、数字の読み方・種目の読み方・途中時間の読み方等をもう一度確認してほしい。

最近では「…であります」という言い方はせず、普段の話し言葉に近い自然な言い回しになっている。

例) 「…です」「…ました」等

また、400m や途中時間の読み方を「1 分 10 秒」とするのか、「70 秒」とするのかには現在のところ決まりはないが、選手に向けてのアナウンスなら、選手が普段慣れている秒単位であるし、観客に向けてなら、実生活に倣い分単位であろう。アナウンスする相手を念頭に、主任の判断で方針を立て、その競技会のアナウンサー全員が統一した言葉でコメントする必要がある。

5. 競技会を盛り上げるための音楽について

演出として BGM を使用することにルール上の制限はない

BGM を使用するのか、どの程度の音量にするか等は、競技会の性質や競技の進行に応じて主催者が決める

大規模競技会などでは、プロの DJ が入り、競技中に大音量で音楽を流すことが多くなった。

この場合、競技運営上支障が出たとしても、BGM の音量調節より、競技運営の方法を工夫することが求められることもある。例えば、審判員同士の会話が聞こえにくい場合は無線を使用するなど、事前に対策を立てておくことが重要となる。

EPM が任命されていれば、BGM をいつ使用するか、どのタイミングで止めるのか等 EPM の判断によるが、EPM や DJ が不在で BGM を付けるとすればアナウンサーが兼任する場合が多い。関係者との事前の丁寧な打ち合わせにより理解を得ることが重要となる。

以 上

2024年度 北海道陸協 伝達講習会 ＜審判関係＞



日程：2025年3月9日（日）
オンライン会議
一般財団法人 北海道陸上競技協会

2024年度 S級公認審判昇格者について



- **161名**申請 ⇒ **158名**を昇格候補者
- 不合格者の内容
 - ▲講習会及び競技会の回数不足（講習会の日付/担当役員名）
 - ▲審判講習会：都道府県（地方陸協）主催の伝達講習会
※6年間 ⇒ 5年間（2027年以降）＊コロナ感染症対応
- 講習会実績報告書を毎年その年度分を確実に提出
- 理由書（家庭事情・仕事の都合・体調問題）認められない
- 道陸協S級昇格者：6名
 （ 櫻田喜代美（道南）野澤孝志・三原智恵子（道央）
 尾崎みやぶ・佐藤隆延・舟根大介（オホーツク） ）

2024年度 道陸協公認審判員取得・昇格



2024年度 公認審判員取得・昇格者数集計表							2024.10.31現在
	S級	A級	B級 (一般)	B級 (高校)	C→B級 (高校)	C級 (高校)	合計 備考
道 南	1		18	7		1	27
小樽・後志			3	3	1		7
室蘭地方			4		4	5	13
苫小牧			3		5	13	21
札幌		1	8	5	3	20	37
道 央	2		6				8
道 知		1	2	9	2	14	28
道 北		3	2				5
道 勝		1	1			8	10
釧路地方			10			53	63
オホーツク	3	3	11		2	29	48
合 計	6	9	68	24	17	143	267

2024年度公認審判員数 <2024年1月30日現在>



	S級	A級	B級	C級	合 計
男 性	134	228	667	132	1,161
女 性	11	41	219	65	336
合 計	145	269	886	197	1,497
全国合計	4,071	6,613	20,602	2,827	34,113

7 3 4 4 2

新たな国際(WA)審判員制度



- Apprentice Level : 制限なし ATHLETIC FUN向け
- NAR Level : 16歳以上 e-learning、Online試験、実技研修3回
- WA Referee Bronze : 19歳以上 NAR3年、e-learning、Online試験
[Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge]
- WA Referee Silver : 23歳以上 WARB4年、e-learning、Online試験
- WA Referee Gold : 27歳以上 WARS4年、e-learning、Online試験
- 国内(JAAF)公認審判員制度 (C・B・A・S級) 制度との1本化を検討
- 早ければ来年度の全国会議で素案提示 (日本陸連・競技運営委員会)

WARB-World Athletics Referee Bronze



- 9月27～29日 オンラインアプリ「Test We」で実施
- 日本国内受験者：186名 → 合格者：144名 (合格率77%)
- WARWJB (World Athletics Race Walking Judge -Bronze)
- 12月7日 オンラインアプリ「Test We」(ビデオ判定試験・筆記試験)
- 日本国内受験者：15名 → 合格者12名 (合格率80%)
- 2025年：ブロンズ写真判定、ブロンズスターター試験予定
*WAからジェンダーバランスを50:50に近づけるよう求められている

WARB - World Athletics Referee Bronze

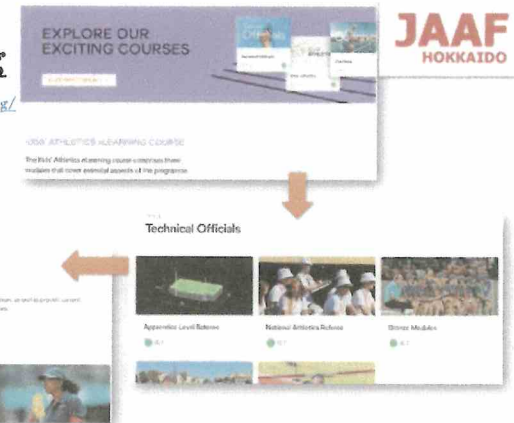


- Bronze Referee 試験について
 - ・年齢制限：60歳未満
 - ・学習方法：WA e-learnin (<https://elearning.worldathletics.org/>)
 - ・試験時間：『Test We』180分間 (3日間の中で受験)
 - ・資格取得：WA主催競技会で審判員主任を務める
WRk競技会で審判長・審判員主任を務める
(規則遵守確認の派遣役員はブロンズ資格者)
- 2024年度 北海道陸協合格者 (7名)

上村 卓 (室蘭地方) 佐藤真衣子・神慶次郎 (札幌) 北村裕美 (道北)
 中田光哉・小野寺理香 (オホーツク) 玉井康夫 (空知)

WA e-learning

<https://elearning.worldathletics.org/>



東京2025世界陸上 競技役員

- 大会期間：9月13日(土)～21日(日)
- 派遣期間：9月8日(月)～22日(月)
- 会 場：国立競技場
- 内 定 者：8名



川合耕司(道南) 上村 卓(室蘭地方)
佐藤真衣子(札幌) 玉井康夫(空知)
竹林貴久雄・中田光哉・小野寺理香・橋本秀樹
(オホーツク)



WRk競技会の基本概要 (おさらい)



- WRk(ワールドランキングコンペティション)：世界陸連(WA)承認競技会
- 対象：国際大会の標準記録・ワールドランキング
- 申請：WA規則に準拠し事前申請(60日前)・申請料(25€)
大会名・競技場名・開催日・種目・連絡先
- 報告：24時間以内に送信(PDF-日英併記リザルト)
- 認証：競技運営・用器具・計測はWA認証基準に従う
- 審判長・主任：WAレフェリー資格者配置(2026年度以降)

WRk競技運営の留意事項



競技場
■ トラック・内場
■ 外場・WA Check Zone



選手経路コース
■ すべてWA記録



写真判定
■ 800m以下は必須
■ 写真コントロール必須



5m
■ 4番までは必須
■ 世界・アジア記録記録は必須



風向風速計
■ 風向式も必須
■ 世界・アジア記録記録は必須



高欄計測
■ 競技ヤード・4m計測装置
■ 材料設置位置・高さの確認
■ 1.5m・1.2m計測
■ 透過式・電子式・カメラ式
■ 世界・アジア記録記録は必須



WA記録歩数計
■ 各400m以下は必須
■ 1200m以下はWA記録歩数計
■ 世界・アジア記録記録は必須



WA記録投てき機
■ WA記録投てき機



走幅跳・三枚跳
■ 走幅跳・三枚跳は必須

大規模大会での審判トラブル事例 1



- 種目：砲丸投
- 事象：芝生に落下した砲丸がバウンドして戻る
→ 審判員が戻った砲丸の痕跡を計測
(最初に落下した痕跡ではなく)
→ 競技終了後、関係者のビデオで発覚
* 科学計測・2名の痕跡判定
実際の落下地点より短い距離を計測

大規模大会での審判トラブル事例2



- 種目：砲丸投
- 事象：痕跡担当審判員がファールと勘違いしてマークを抜く
 - 試技のやり直しを審判長が指示
 - 試技順をそのラウンドの最後に変更
 - 2投目以降もラウンドの最後の試技順
 - ※ 審判長が選手に順番変更を伝えていた
 - ※ 監督から選手が動揺するから翻すなとクレーム

【TR25.18】

大規模大会での審判トラブル事例3



- 種目：円盤投
- 事象：不自然に多くの炭酸マグネシウムが付着した円盤
 - 松やニ状のものが付着
 - 全ての円盤を拭き取る
- 対応：決勝では競技者使用の円盤番号を控える
 - 投擲後に円盤をチェックして戻す対応

大規模大会での審判トラブル事例4



- 種目：3000m予選
- 事象：Aが転倒⇒曲走路内を転がる⇒そのままトラックへ
- 対応：Aを失格
 - ⇒ Aから抗議（他選手に押されて転倒した＝救済）
 - ⇒ トラック審判長から説明
 - （ビデオ確認の結果、他選手によるものではない）
 - ⇒ Aが上訴
 - ⇒ ジュリーは審判長裁定を支持

大規模大会での審判トラブル事例5



- 種目：300mH決勝
- 事象：⑧レーン選手が⑨レーンのハードルも倒す（8台目）
 - ⇒ ⑨レーンの選手は8台目を跳べずにフィニッシュ
- 対応：⑧レーンを失格
 - ⑨レーンを救済（着順を認め、記録は未公認）
 - ※ 決勝出場の全監督を集めて説明（抗議なし）

セーフガーディングに関する e-ラーニング受講のお願い③

JAAF
HOKKAIDO



「コース」から「セーフガーディングの基礎知識」を選択



靴規程運用の補足

競技会現場でのシューズ計測

シューズの厚さ計測を規定に準じて正確に実施するためには専門の検査機関による計測が必要で、競技会現場にて手作業で正確に計測するのは困難であるため、承認シューズリスト掲載モデルは審判員による計測は求められていません。

承認シューズリスト

承認シューズリスト (<https://certcheck.worldathletics.org>) に掲載され、使用開始日を経過し、使用可能種目に該当しているモデルと実際に使用された靴が合致していればワールドランキング対象競技会や靴規程を適用するその他の公認競技会で、**競技会現場での測定をせず、使用が認めれます。**

シューズリストには「新しい靴」、「既存靴」、「開発段階の試作靴」（試作靴）が掲載されています。**試作靴は使用可能期間内で指定された競技会に、承認された特定競技者**しか使用することができません。「カスタマイズされた靴」（カスタム靴）も医療・安全上の理由で特定個人の競技者に承認されるものですが、新しい靴、既存靴、試作靴をもとにカスタムしているので、カスタム靴として別途のリスト掲載はありません。

種類	購入可否	承認
既存靴 (WA 承認シューズリストに掲載されているもの)	一般購入可	WA 事前承認不要。 使用可。
新しい靴 (WA 承認シューズリストに掲載されているもの)	一般購入可	WA 事前承認の上、使用可
カスタマイズされた靴 ※ 安全／医療上の理由に限定 ※ 靴底、アッパー、スパイク追加等の改造 ※ 取り外し可能なインナーソールなどの装具の挿入。 ※ ヒールレイズ、ヒールカップ、ブレース、ストラップの追加。		WA 事前承認の上、使用可
開発段階の試作靴 ※ プロトタイプ	一般購入不可	WA 事前承認の上、指定競技者が指定期間内の指定競技会のみ使用可 WAS 大会・五輪 使用不可
オーダーメイドの靴 ※ 既存靴、新しい靴を基礎としない完全唯一無二の靴	唯一無二 一般購入不可	使用不可

競技会において全てのシューズチェックは不要

参加選手は WA 承認シューズリストのシューズを着用していることを前提とし、招集所や選手受付などで、参加者全員のシューズチェックを行う必要はありません。ただし、審判「シューコントロール・オフィサー」または「審判長」の権限により、いつでもシューズチェックをすることができ、参加者はその指示に従わなければなりません。明らかに規則違反のシューズや疑義のあるシューズは、チェックや回収の対象になることがあります。万が一レース後に違反が認められた場合には、失格となり記録が取り消される場合があります。

規則違反や疑義が確認されない限り、シューズチェックを実施するのはドーピング検査が実施されている主要競技会あるいは本連盟、ワールドアスレティックス、アジア陸連が指定した競技会のみで差し支えありません。なお、引続き、審判長の裁量でのシューズチェックを実施することは可能です。

シューズチェックの手順（ガイドライン抜粋）

- シューコントロールの手順は次の通りとする。
 - シューコントロール対象競技者の本人確認を行う。
 - シューズのブランド名、モデル名および／または品番をもとに、当該シューズが承認競技用靴リストに掲載されているかを確認する。
 - シューズが承認リスト上で使用承認されており、かつ、競技者は世界記録を達成していなければ、これ以上の作業は不要で、シューコントロールは完了とする。
 - シューズが承認リストに未掲載あるいはモデル名等を特定できない場合はシューズチェック様式を記入し、競技者の AD カード（身分証明）、アスリートビブス、シューズ（シューズのモデル名・番号の特定に活用できるラベル等の写真も含む）を撮影する。全ての書類・写真は追加調査のために rules@worldathletics.org に送信する。
 - 世界記録達成時には、シューズチェック様式を記入し、競技者の AD カード、アスリートビブス、シューズを撮影する。全ての書類・写真は rules@worldathletics.org に送信する。これに加えて、12 条および 13 条の規定にもとづきシューズ現物を回収する。
- ※ 本連盟にも同報をお願い致します。 compe-tech@jaaf.or.jp
- ※ なお、WRK 対象ではない競技会は本連盟にご相談ください。